

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 満願寺薬師堂

今月紹介するのは、東汗の満願寺の薬師堂です。満願寺は767（神護景雲元）年に建立されたお寺といわれ、

や民話が残されるなど、人々の心のよりどころであったお寺なのです。

県指定文化財木造阿弥陀如来坐像や、町指定文化財薬師三尊像、不動明王像、十二神将像といった、平安時代末期から鎌倉時代の初めにかけて制作された数多くの仏像が残っており、この時代に最も栄えていたことがうかがえます。しかし、江戸時代の1776（安永5）年に作成された古文書を見ると、数ある堂宇のうち、

薬師堂は名前の通り、薬師如来を本尊とするお堂のことです。この薬師堂は1925（大正14）年の寺有財産帳によると、1716（享保元）年10月に建てられたと記録にあり、江戸時代中期の建物であることがわかります。正方形に近い三間堂（柱と柱の間が三つある建物）で、屋根は「宝形造」という造り方をしています。均整のとれた美しい建物で、軒の組みものや、内部の彫刻には江戸時代の気風がよくあらわれています。

弥陀堂が大破してしまったとの記述があり、その後弥陀堂が再建されることが無かったことから、このころには有力な後ろ盾を失っていたと推定できます。しかし、1732（享保17）年には、宇都宮藩主戸田忠余が参詣するといったように、たくさんの人々の信仰を集め、現在に至っても多くの伝説

から、台形と三角形の屋根からなります。対して、満願寺の薬師堂に取り入れられている「宝形造」は、平面が正方形の建物に、四方向に斜面を持つ屋根を作ることから、全ての面が三角形になるのです。そして屋根の頂上には雨仕舞と装飾の目的で露盤宝珠が置かれるのです。

建立されてから300年近くが経過している薬師堂は、地元の皆さんの手で長い年月にわたって大切にされてきました。傷みの激しい屋根については、平成19年度に瓦葺から銅板葺に改められました。しかし、美しい姿は今も変わることがありません。

この建物の屋根のつくりの特徴である「宝形造」という作り方は、「寄棟造」に似た作り方です。「寄棟造」は平面が長方形の建物に、四方向に斜面を持つ屋根を作ること



満願寺薬師堂

江戸時代															
西暦	元号	できごと													
1619	元和5	幕府、人身売買の禁令を出す。													
1637	寛永14	島原の乱が起きる。													
1643	寛永20	幕府、田畑永代売買禁止令を出す。													
1680	延宝8	徳川綱吉が將軍となる。													
1688	元禄元	上神主・下神主村と茂原村が入会秣場の境界をめくり騒動を起こす。													
1689	元禄2	松尾芭蕉、「奥のほそ道」の旅に出発。													
1702	元禄15	赤穂藩浪人大石良雄ら、吉良義央を殺害。													
1707	宝永4	富士山噴火。													
1712	正徳2	鳥居忠英が近江水口城から壬生城に移封される。（下野における干瓢伝来）													
1716	享保元	満願寺薬師堂が建立される。													
1722	享保7	幕府が新田開発政策を積極的に推進する。													
1724	享保9	下蒲生村安左衛門ほか9名が芝野200町歩の開発を願い出る。													
1727	享保12	多功家子孫多功孫左衛門が今治藩主松平采女に従い日光社参をし、途中雀宮宿にて家来の子孫と会つ。													
1728	享保13	8代將軍吉宗、日光社参。													
1732	享保17	関宿通多功道にも13の大名が通行。													
1741	寛保元	この年の下神主村にて干鯛小糠の使用が一般化していることがわかる。													
1764	明和元	宇都宮藩が百姓の暮らしのせいたくをいましめる定書を発布する。													
1783	天明3	宇都宮城下において豪商打ちこわし、各筋ごとの庄屋への攻撃が行われる。													
1790	寛政2	下野国南部一帯にて打ちこわし起きる。													
		田村仁左衛門吉茂が生まれる。													